

地方創生事業好事例紹介

じゃぱにうむ

じゃぱにうむレビュー 第6回

## クライアントと共に、印刷物の「その先」を創り出す メディアカンパニー

### ヤマゼンコミュニケーションズ株式会社

ヤマゼンコミュニケーションズ株式会社  
所在地：栃木県宇都宮市インターパーク 4-3-1  
代表者：代表取締役 山本 堅嗣宣  
従業員数：69名（2021年12月現在）  
URL: <https://www.yamazen-net.co.jp/>

#### 「紙を積むより、価値を積み」

印刷会社の社長が言い放つ社員教育の方針が面白い。「紙を積むより、価値を積み」。紙積みは、印刷工場で働く誰しもが新人時代に体験する、云わば印刷の「いろはのい」だ。その紙積みより、価値を積みとは一体、どういうことなのだろうか？

栃木県宇都宮市に本社を構えるヤマゼンコミュニケーションズ株式会社が運営する口コミサイト「栃ナビ!」は、栃木県内一の人気サイトだ。県内を中心に78,900人（2021年10月現在）の会員が寄せる「口コミ」情報の数はなんと544,000件を超える。この口コミ情報を元に「お店・スポットを探す」「イベントを探す」「エリア情報」「特集を見る」の大きくは4つのカテゴリーに区分されたサイトには様々な情報が満載されている。

「お店・スポットを探す」には、食べる・買う・キレイ・子連れ・遊ぶ・くらす・健康・観るという8つのタブが用意されており、「食べる」には、和食、洋食からカフェ・スイーツ・パンまで、「キレイ」であれば、理美容室、ネイルサロンからスポーツジムまで、更に細分化されたお店・スポット情報が合わせて14,000件以上掲載されている。

代表取締役の山本堅嗣宣社長は、大学を卒業後渡米し、3年あまり米国の製版会社に勤務していたが、食べる・遊ぶといった情報が乏しく、生活していくのに不自由さを感じたという。そこで、帰国後ヤマゼンコミュニケーションズに入社した山本社長は、地域の生の情報を掲載する「生活情報サイト」

の立ち上げに取り組んだ。

立ち上げ当初は、この「栃ナビ!」のPRと口コミを収集するために相当の広告宣伝費をつぎ込んだというが、黒字化してからは加速度的にアクセス数が伸び、2021年10月時点での月刊利用者数1,100,000人、月間アクセス数は1800万ページビューを下らない一大サイトへと発展した。

ここまで発展するには、それなりの理由がある。「口コミ」に徹底的にこだわったからだ。同社の「栃ナビ!」紹介のWebページを見ると、ユーザー属性が示されている。女性58%・男性42%、25歳から45歳までで79%、栃木県内在住者90%。つまり、県内在住の主に働き盛り、子育て盛りの女性が「ユーザーとして」このサイトを支えているわけだが、彼女らは、同時に優秀な「口コミ投稿者」でもあろう。情報を発信するところにより多くの情報が集まるのは至極当然ではあるが、「栃ナビ!」はこの「口コミ投稿者」をととても大切にしている。



「栃ナビ!」ホームページ



## 戦略的「メディア」への収斂

「栃ナビ！」の Web ページを開くと、「メンバーリサーチ」というタブがある。性別・年代・エリアを指定して投稿者を検索する窓の下には、実際に口コミを投稿している投稿者をランキング形式で一覧できる表がある。掲載されている投稿者のニックネームをクリックすると、性別・居住地・年代・職業から、趣味・自己紹介まで、その人のプロフィールと、これまでに「投稿したクチコミ・おすすめなど」を見ることができる。更には、この投稿者の「ファンになる」というボタンが用意されているところが面白い。所謂「いいね！」ボタンと同じ機能を果たしているようにも思える。これはもう、単に地域のお店情報が掲載されている Web ページの域を脱し、情報の発信者と利用者が集うソーシャル「メディア」へと進化しているとは言えまいか？

ヤマゼンコミュニケーションズでは、「栃ナビ！」が抱える 7 万人を超える生活感度の高い会員（口コミ投稿者）にアンケート調査への協力を依頼。1,000 件を超える回答によるマーケティングリサーチデータを基にプレゼンを行い、セールスプロモーションの受注に活かしている。

東武百貨店宇都宮店で開催される「パン祭り」は栃木県・埼玉県内の人気の高級食パン店が一堂に会する催事イベントだが、毎回 2 万人を動員し売り

切れ店続出のこのイベントの仕掛け人が実は「栃ナビ！」だ。「栃ナビ！」のメディアとしての情報発信力が女性利用者を突き動かしている。ヤマゼンコミュニケーションズのメディア事業の戦略性が垣間見えるところだ。

## 口コミ情報サイトネットワークの全国展開

そんな「栃ナビ！」だが、お店の情報を掲載する料金は、月に 11,000 円というコースから用意されている。しかも掲載コンテンツはお店の方で更新や写真のアップが可能のため、タイムリーな情報提供が可能だ。それでもこの事業が会社全体の利益の半分近くを稼ぎ出し、高い利益率を維持する事業となっているという。

そこで、ヤマゼンコミュニケーションズはこの「栃ナビ！」の仕組みを全国に展開すべく、「1 県に 1 社様限定」のパートナー企業として、既に 16 社の印刷会社の口コミサイトの立ち上げからサイトメンテナンスまでをサポートしている。地域に根ざした自社メディアをもつことで、他の会社にはできないサービスを実現することによる価格競争にさらされない経営を提案している。

「紙を積む（＝印刷をする）より、価値を積み」とは正にこういうことなのではないか？ヤマゼンコミュニケーションズの今後に期待したい。



「栃ナビ！」メンバーリサーチのページ



栃ナビ！マルシェパンまつり in TOBU